

## 第6回 旭川流域懇談会 議事要旨

第6回旭川流域懇談会は、事務所長の挨拶に続き、1.平成17年度の懇談会活動報告、2.協議会活動等の報告（百間川河口水門周辺有効活用方策検討協議会、百間川分流部周辺有効活用方策検討協議会、旭川流域連絡協議会、旭川植生管理方針検討会）、3.旭川流域の特徴と課題について、4.平成18年度以降の活動について（旭川流域委員会及び準備会スケジュール、流域委員会等の設置の背景と検討内容について）、討議を行った。

議事要旨は以下のとおり。

旭川流域懇談会の質疑内容	質疑に対する意見・回答及び決定事項
<p><b>1.平成17年度懇談会活動報告</b>                      これまでの懇談会と現地見学会の経緯及び概要について説明。また、平成17年11月29日（火）に実施した旭川中流域現地見学会【参加22名】の結果報告を行った。</p> <p><b>2.協議会活動等の報告</b>                      岡山河川事務所が現在設置している各種協議会の内、百間川河口水門周辺有効活用方策検討協議会、百間川分流部周辺有効活用方策検討協議会、旭川流域連絡協議会、旭川植生管理方針検討会の活動状況について報告を行い、意見交換を行った。</p>	<p>百間川河口水門周辺有効活用方策検討協議会報告について 委員意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 河口部の塩水導入実験は、随分波紋が広がっているようだが、経緯等について伺いたい。</li> </ul> <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第4回協議会において、百間川河口水門の中も外もいい環境が創出されるとの意図で、委員の方から塩水導入という提案があり、第5回協議会で具体的な実験計画案の提案を行った。その後、地元説明会では、農家の方から塩害の危険性などのデメリットが多い等の反対意見が出されている状況である。</li> </ul> <p>百間川分流部周辺有効活用方策検討協議会報告について 特に意見なし</p> <p>旭川流域連絡協議会報告について 委員意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3つの自主防災モデル地域は具体的にどこか。また、H18年度から本格的に行っていくのか。</li> </ul> <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ （旧）落合町の開田自治会、建部町の川口地区、岡山市操明学区の3地区である。本年度まで、3地区をモデル地区として防災マップの作成等を行ってきた。</li> <li>・ 今後は、旭川流域連絡協議会を構成する10市町村の各箇所でモデル地区を選定し、10地区へと拡大していく方針である。</li> </ul> <p>委員意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在、自主防災組織は、旭川流域にどれくらい存在し、そのうち十分機能しているのはどの程度か。</li> </ul>

旭川流域懇談会の質疑内容	質疑に対する意見・回答及び決定事項
<p><b>3. 旭川流域の特徴と課題について</b> 旭川の特徴と課題について、現状と歴史的な側面から説明を行い、意見交換を行った。</p>	<p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>流域で把握はできていないが組織率については、全国平均が約 65%に対して、岡山県が約 43%であり、現状としては組織化が遅れている。現在まで災害が少なかったこともあり、防災に対する考えが希薄化していることが原因であると考えられる。</li> </ul> <p>委員意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自主防災組織が対象としている災害は何か。</li> </ul> <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在、水防災を主な対象としている。ただし、限定はしていない。</li> </ul> <p>植生管理方針検討会報告について</p> <p>委員意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>柳の木の伐木等、今後の維持管理について考えを伺いたい。</li> </ul> <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国交省では、必要に応じて順次伐木を行ってきたが、維持管理方法については、ダイオキシンの問題などで野焼きが出来ないということで苦慮しているのが現状である。地域の方とのタイアップも視野に入れながら、経費削減できる方法を模索している。</li> </ul> <p>委員意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>植生管理の方針は確定しているわけではなく、試行錯誤しながら、中期的、長期的にどういう形がふさわしいのかというのを模索している段階と理解してよいか。</li> </ul> <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>その通りである。植生管理には植生の樹林化と礫河原の再生の2つの側面を持っているが、自然を再生し、川に近づける環境を取り戻したいという考えから、2つの側面の連携、相乗効果を期待しながらやっている。</li> </ul> <p>委員意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料 40 ページの地形特性と岡山平野の特性に関して、確かに地盤高が低いのは事実だが、干拓地も一つの要因であるため、文章として、「河口付近には広大な干拓地があるので」という表現を付け加えた方がよいのではないか。</li> <li>資料 52 ページの河道特性に関して、河床が洗掘傾向にあるとされているが、洗掘の原因は主には何か。</li> </ul> <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>洗掘傾向にあるのは、昭和 43 年から比べてということで、最近のデータだけ比べると安定している。ケレップ水制の対岸で洗掘傾向が見うけられる。</li> </ul> <p>委員意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>旭川の上流、中流、下流とは、明確に区別された概念なのか。</li> </ul> <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>区分の一つの基準は、地形的な形状である。山地の形状をしている新庄川合流点から上流が上流域、吉備高原地域を中流域、下流の平野部を下流域。その3つの大きな分け方は変えてない。</li> </ul>

旭川流域懇談会の質疑内容	質疑に対する意見・回答及び決定事項
<p>4.平成18年度以降の活動について 旭川流域委員会及び準備会のスケジュール、流域委員会の設置の背景と検討内容について説明を行い、意見交換を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ただし、非常に漠然とした使い方であり、明解ではない。今後、注意して使いたい。 委員意見</li> <li>・ 河床の勾配がこの3区分で随分変わるのではないか。ただし、勾配の変化のみでは区分できないだろうが。 事務局</li> <li>・ 河床の縦断勾配の資料を追加する。 委員意見</li> <li>・ 資料40ページの横断に関しては、平面と併せて提示いただきたい。 事務局</li> <li>・ そのように表現する。 事務局</li> <li>・ 資料44ページ旭川下流部の地盤高に関して、昨年のカトリーナの災害以降、ゼロメートル地帯の対策の重要性が再認識された。T P1.32が朔望平均満潮位であり、一つの目安となるため、海拔0mとの区別をしていきたい。</li> <li>・ 資料44ページの黄色で示されている大半が朔望平均満潮位以下になるため、海岸堤や河川堤防が決壊すれば岡山平野の大半が浸水する可能性があり、非常に重要な考え方である。</li> </ul> <p>旭川流域委員会及び準備会のスケジュール 委員意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 流域委員会設置と基本方針策定がH18年度の同時期になる予定と理解してよいか。 事務局</li> <li>・ 一般的には、基本方針が策定され、その後、一定の期間を設けて、整備計画の作成という流れであるが、本委員会では、期間を設けずに続けて整備計画の作成に移行する方針である。 委員意見</li> <li>・ 流域委員会の開催回数として、6回が示されているが、H18年度中のことか。 事務局</li> <li>・ H18年度中という意味ではない。流域委員会の第1,2回では規約等について議論を行い、本格的な議論に移れるのは、第3回ぐらいからと考えている。</li> <li>・ ただし、次回、第7回懇談会と準備会を併行させ、委員の人選や規約の見直しなどを含め、出来る限り速く具体的な議論を行っていききたい方針である。</li> </ul> <p>流域委員会の設置の背景と検討内容について 委員意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 流域委員会と河口水門や分流部の協議会との関係はどうなるのか。</li> </ul>

旭川流域懇談会の質疑内容	質疑に対する意見・回答及び決定事項
	<p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>流域委員会の中で包括的に、それらの協議会の動きを加味しながら対応する考えである。</li> <li>分科会のあり方についても、今後、御提案させていただく方針である。</li> </ul> <p>委員意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>吉井川や高梁川についても整備計画を策定していくとのことだが、三川全体をどういうふう運営するのか。</li> </ul> <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本方針については、H18 年度中に、三川とも策定する予定である。流域委員会の委員選任も三川にまたがった形が望ましいと考えている。公約数的な考え方を先生方をお願いして進めていきたい。</li> <li>三川とも違う様相を持っているが、それを十分に受け止めていただければという期待もしている。</li> </ul> <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料 76 ページの計画策定フロー、PI(パブリック・インボルブメント)手法等について、次回、御意見をいただきたい。</li> </ul> <p>委員意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>懇談会から準備会へ移行し、その後、流域委員会を設立するというのは、大変な気がする。準備会での検討内容を含めて懇談会で行うことはできないのか。</li> </ul> <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>懇談会は、旭川について認識を深めていただく期間として設けたものであり、準備会への移行は本質的には変わることなく、名称等が準備会へと戻るという理解をお願いしたい。</li> </ul>

閉会 11:48